

立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）とカリフォルニア大学バークレー校日本研究センター（CJS）による
合同国際シンポジウム

テーマ：「物質文化資源のカタログングとデジタル活用」

日時：2026年6月27日（土）13:00–17:45

会場：立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）多目的ルーム

共催：

カリフォルニア大学バークレー校 日本研究センター（Center for Japanese Studies, University of California, Berkeley）
立命館大学アート・リサーチセンター（Art Research Center, Ritsumeikan University）

協力：立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ
国際共同研究拠点」（ARC-IJAC）

プログラム

13:00–13:05 開会挨拶：赤間 亮（立命館大学 デザイン・アート学部 学部長・教授／ARC 副センター長）

第I部 プレセッション【英語開催／発表20分・質疑応答10分】

司会：Travis Seifman（衣笠総合研究機構 准教授／ARCリサーチマネージャー）

コメンテーター：Jonathan Zwicker（カリフォルニア大学バークレー校 東アジア言語文化学部 教授）

13:05–13:35 「アスタルテ書房の歴史と文化的意義：1984-2024」

岡崎 壮彦（立命館大学大学院文学研究科行動文化情報学専攻文化情報学専修修士課程）

13:35–14:05 「小林秀雄『おふえりや遺文』から考える1930年代初頭の日本文学と言語」

佐々木 梓（立命館大学ゲーム研究センター 専門研究員）

14:05–14:15 休憩

第II部 国際シンポジウム【日本語開催】

司会：赤間 亮（立命館大学 デザイン・アート学部 学部長・教授／ARC 副センター長）

14:15–15:15 基調講演

「カリフォルニア大学バークレー校におけるハースト人類学博物館所蔵日本関係資料の再解釈」

羽生 淳子（カリフォルニア大学バークレー校人類学科 教授／日本研究センター センター長）

15:15–15:30 休憩

15:30–15:55 「縄文時代の人口変動と空間分布を可視化する：GISを利用した環状列石の解釈」

中村 大（立命館大学 デザイン・アート学部 教授）

15:55–16:20 「工芸資料のデジタル化と利用促進における課題と展望」

前崎 信也（立命館大学 デザイン・アート学部 教授）

16:20–16:45 「小型の有形文化遺産の三次元計測とそのデジタル活用」

山口 欧志（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 主任研究員）

16:45–16:55 休憩

16:55–17:40 ディスカッション

17:40–17:45 閉会挨拶：Jonathan Zwicker（カリフォルニア大学バークレー校 東アジア言語文化学部 教授）